

1. 研究課題名

アジアにおけるバイオ燃料の持続的需給システムの構築に関する研究」

2. 研究代表者氏名及び所属

丸山敦史（千葉大学園芸学部）



3. 研究実施機関

平成19～20年度

4. 研究の趣旨・概要

地球温暖化対策としてバイオ燃料の利用が世界規模で拡大している。わが国でも本格的な普及が図られているところであり、効果に大きな期待が寄せられている。国内農業部門でのバイオ燃料の生産に期待がもたれつつあるが、短期的に導入目標を達成するためには、供給余力を持つ国々からの輸入が必要になるであろう。その様な状況下では、消費国におけるバイオ燃料の経済効率性や温室効果ガスの削減効果を検討するだけではなく、燃料生産国における環境・社会経済面の影響について持続的の観点からの議論が不可欠である。

本研究課題は、アジア圏について持続可能なバイオ燃料の需給システムを実現するために必要な条件の整理と検討を行うものである。特に、バイオ燃料の自動車や大気環境への影響と原料作物の栽培に伴う環境や地域経済への影響に着目する。車両性能や走行量、インフラ状況、経済成長、原料別の栽培状況といったマクロ的な統計データを用いてアジア主要国のバイオ燃料生産の需給動向を分析した上で、日本との一層の経済連携が期待されているフィリピンを対象に詳細な調査を行う。

研究成果は、環境と社会の両側面から適正なバイオ燃料の普及政策のあり方を提示するものと期待される。

5. 研究項目及び実施体制

アジア各国の需要動向と持続可能な需要システムの構築に関する研究

（（財）日本自動車研究所）

フィリピン産バイオ燃料の利用に伴う自動車性能及び環境性能に関する研究

（（財）日本自動車研究所）

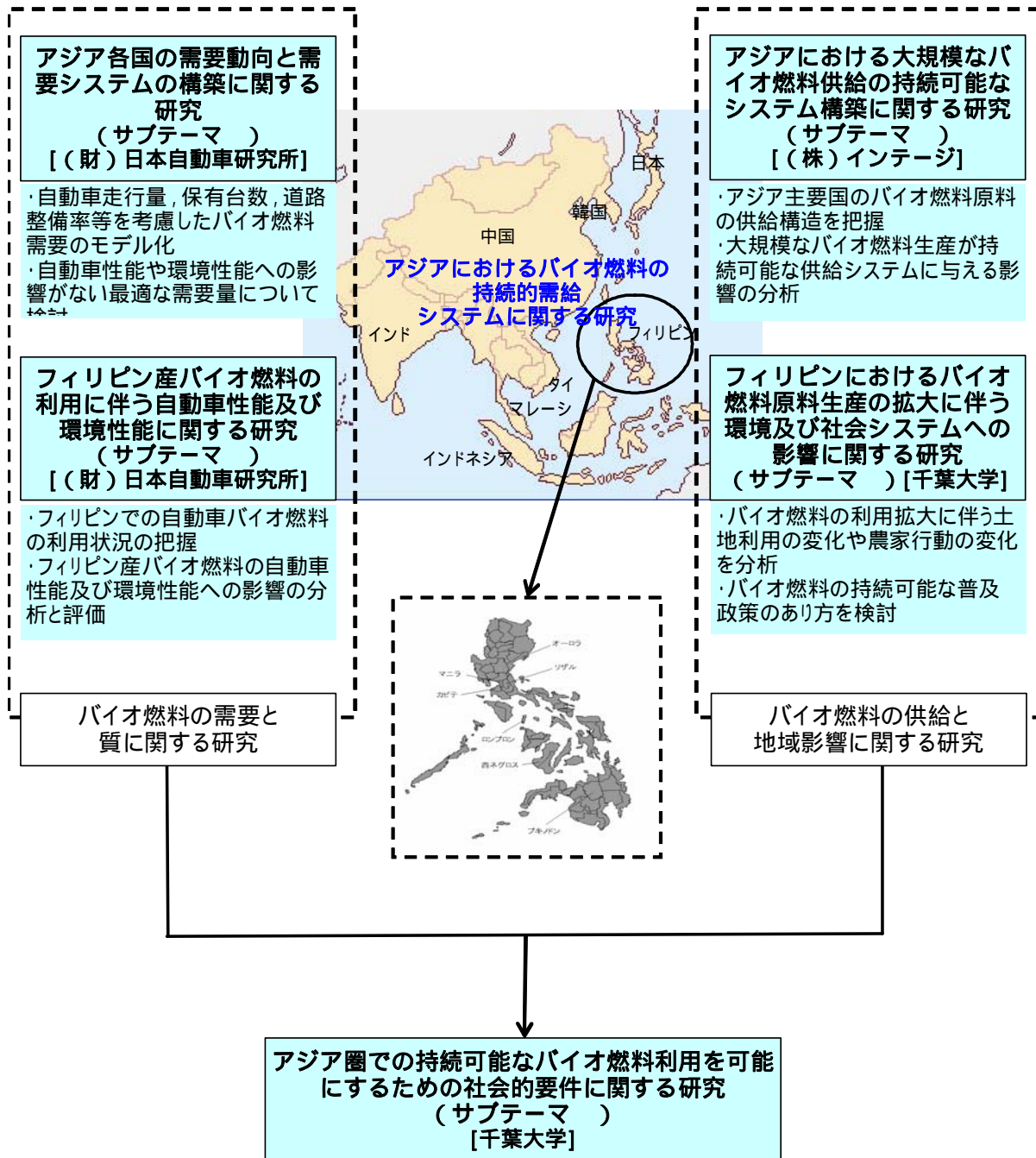
アジアにおける大規模なバイオ燃料供給の持続可能なシステム構築に関する研究（（株）インテージ）

フィリピンにおけるバイオ燃料原料生産の拡大に伴う環境及び社会システムへの影響に関する研究（千葉大学）

アジア圏での持続可能なバイオ燃料の利用を可能にするための社会的要件に関する研究（千葉大学）

6. 研究のイメージ

RF-078 アジアにおけるバイオ燃料の持続的需給システムの構築に関する研究



期待される研究成果

- ・バイオ燃料の自動車・環境性能が確保される需要システムの成立要件を提示する。
- ・大規模生産の実態と持続可能な供給システムへの影響を明らかにする。
- ・環境と社会経済の両側面から適正なバイオ燃料政策の要件を提示する。

地球環境政策への貢献

- ・アジア圏における持続可能なバイオ燃料の利用支援政策に必要な資料を提供する。